

手軽に情報化施工へ対応

＝NETISに登録＝

かんたんマシンガイダンス

前田道路

前田道路のより手軽に情報化施工ができる「かんたんマシンガイダンス」が国土交通省のNETIS（新技術情報提供システム）に登録された。従来の測量機器の使い方を工夫し、特殊な装置やソフトは不要。現在、使用している舗装修繕工事用の機械を簡単に情報化施工へ対応でき、高効率で高精度な施工を実現する。

舗装工事で一般的な情報化施工3次元マシンコントロール（3DMC）は、主に土砂や路盤材の敷き均しなど、新設の舗装工事で広く活用されているが、専用機械の導入や機械の改造などが必要で、コスト負担が大きい

という課題があった。これに対し、より手軽に導入できる情報化施工技術が3次元マシンガイダンス（3DMG）。機械の位置等の情報と3次元設計データとの差をオペレータに送り、機械操作をサポートする技術。同社は、これまでの情報化施工のノウハウを生かし、舗装修繕工事に3DMGを活用する「かんたんマシンガイダンス」を開発した。

情報化施工の一般化技術である出来形管理用トータルステーションの使い方を工夫することで、機械の改造や特別な装置を追加することなく、現在、使用している舗装修

繕工事用の機械を簡単に情報化施工に対応することができ、通行車両などで機械と位置情報を見失っても、機械を止めずに施工を継続できる。

また、同技術は、GNSS（人工衛星システム）を使う方法も可能。地上型レーザースキャナで道路の路面を予め計測し、その3次元データを使う。これにより、舗装工事では十分といえないGNSSの高さの計測精度の問題も解決している。